

授業概要

「経済統計学」では、「統計学」で学んだ知識を実際の経済データを対象にしてどのように活用すればよいのかについて講義する。各回の授業は、「統計学」で学んだ知識の復習と経済データを対象とした新たな分析方法を学ぶ部分と日本&世界の景気を把握し先読みするのに有効な経済指標について学ぶ部分とから構成される。「新たな分析方法」としては、クロス集計、幹葉図、レーダーチャート、時系列データの要約、時系列データに対する対数の利用、尺度、ローレンツ曲線とジニ係数、実質化、変化率と寄与度、季節調整、回帰分析の考え方などについて講義します。

「経済指標」の活用については、各経済指標を踏まえて投資をするときのポイントについても併せて確認しながら講義します。

授業計画

|        |                                            |
|--------|--------------------------------------------|
| 第 1 回  | オリエンテーション（「経済統計学」で扱う内容、国内全体の消費動向がわかる指標(1)） |
| 第 2 回  | データの種類とグラフ表現(1)、国内全体の消費動向がわかる指標(2)         |
| 第 3 回  | データの種類とグラフ表現(2)、業種別の消費動向がわかる指標             |
| 第 4 回  | データの種類と可視化、度数分布とヒストグラム、国内企業全体の動向がわかる指標     |
| 第 5 回  | ローレンツ曲線とジニ係数、国内の経済動向がわかる指標                 |
| 第 6 回  | 代表値、海外取引の動きがわかる指標                          |
| 第 7 回  | 散らばりの尺度(1)、企業の生産活動がわかる指標                   |
| 第 8 回  | 散らばりの尺度(2)、クロス集計、設備投資がわかる指標                |
| 第 9 回  | 散布図と相関、相関係数、雇用と労働の動向がわかる指標                 |
| 第 10 回 | 名目値と実質値、物価の変動がわかる指標                        |
| 第 11 回 | 変化率と寄与度、不動産の価格変動がわかる指標                     |
| 第 12 回 | 季節性と季節調整、株価や貨幣量がわかる指標                      |
| 第 13 回 | 回帰分析の考え方(1)、日本経済全体の動向がわかる指標                |
| 第 14 回 | 回帰分析の考え方(2)、アメリカの経済動向がわかる指標                |
| 第 15 回 | まとめ（授業内容の確認）                               |
| 第 16 回 | テスト（筆記試験）                                  |

到達目標

- ・統計学で学んだ知識を経済データに適用することができる。
- ・経済データに対する特有の統計手法も理解して活用することができる。
- ・経済指標にはどのようなものがあるか、幅広く知ることができる。
- ・各経済指標について理解して、各自のニーズを踏まえて活用することができる。

履修上の注意

統計処理機能が付いた電卓を使用する。電卓は、「統計学」で使用したものでよい。毎回の講義において、インターネットを活用して経済指標を調べるので、各自でノートパソコンやスマホなどを用意されたい。

予習・復習

授業で扱った例題をかるく復習すること。また、授業中の演習課題のやり残しを宿題とするので、こちらに重きをおいていただきたい。宿題はレポート用紙に記載のうえ第 15 回終了時に提出する。

評価方法

学期末試験：55%、授業内演習と宿題：45%

テキスト

- ・教科書名：経済指標
- ・著 者 名：森永康平
- ・出版社名：日本実業出版社
- ・出 版 年（ISBN）978-4-534-05930-7 C0033